

Q6 実地棚卸はいつ、どのように実施すべきでしょうか。

A6 実地棚卸の実施時期としては、①期末日一斉棚卸、②期末日前の一定日における棚卸、③循環棚卸などが考えられます。ただし、決算時の実地棚卸としては、①期末日一斉棚卸を採用するのが原則です。

解説

実施時期	意義	備考
① 期末日一斉棚卸	期末日にすべての製造ライン、倉庫の入出庫、店舗の営業などを止めて一斉に在庫数量をカウントする方法。	原則的な方法
② 期末日前の一定日における棚卸	期末日に一斉に棚卸をすることが困難な場合に、期末日前の一定日に実地棚卸を実施して一定日の在庫数量を確定させ、その一定日から期末日までの入出庫記録に基づいて期末日の在庫数量を導き出す方法。	継続記録帳簿の精度が非常に高い場合にのみ、決算時の実地棚卸として利用できる。
③ 循環棚卸	倉庫や工場を一定期間で一回りするようなスケジュールを組んだうえで、順番に実地棚卸を実施していく方法。	多店舗展開の小売業など、一斉に実地棚卸を行うことができない場合以外は、決算時の実地棚卸方法として使用すべきではない。 一部の製造業では、在庫管理上の要請から、通常月の月末は部署をローテーションする循環棚卸を実施し、決算月には期末日一斉棚卸を実施していることもある。